

一般社団法人日本映像アーキビスト協会 2021 年度事業報告書

2021 年度の当協会の事業等について報告いたします。

1. 映像アーカイブに関する調査研究

● 公式ホームページの充実とコミュニケーションツールを用いた交流の試行

- (1) 各研究会(分科会)⇒メッセージプラットフォームである slack を活用し、各会員が自発的に各種研究会を発足、運営可能とすべく活動を行う。映画保存に関する技術的なノウハウやベストプラクティスについて共有を行う研究会や、日本における映画・映像保存法成立の可能性を考える勉強会等の発足を検討

本年度も、コロナ禍の影響で、事業全体をウェブ中心に展開した。公式コミュニケーションツールとして、理事会での検討の結果、Microsoft Teams を採用することにした。これに伴い、2021 年 11 月 25 日に会員向けの講習会を行った。「一般」「よもやま」のチャンネルを設置したが、研究会のチャンネル設置には至らなかった。

また、会員から、フィルムに関連する日本独自のシステムやフォーマットについてまとめる「フィルム・アトラス」、ビデオに関する用語の整理を行う「ビデオ・アトラス」の制作について提案があったが、具体的に進展させるまでにはいかなかった。

- (2) オーラルヒストリー⇒本年度も当会もしくは会員が関わるイベント等の採録・公開を行う。また、映像アーカイブに携わる人々のオーラルヒストリーについては現在、対象者の検討を行っており、本年度から本格的にインタビューを始める。

本年度もコロナ禍により、対面形式の新たなインタビューの実施が難しかったため、開催にあたって協力した「映画の復元と保存に関するワークショップ 2021」の講演採録の作業を継続した。

また、会員から、タイピングマンなど現像所技術者へのヒアリングによる技術史をまとめた文章を発表する機会について相談を受けたが、実現までには至らなかった。

● セミナー、ワークショップの企画と実施の検討

本年度は富士フィルムの見学会開催を予定していましたが、コロナウイルス第6波の影響により中止となった。Microsoft Teams を利用して、交流会(2021 年 10 月 23 日)、新年会(2022 年 1 月 3 日)を開催した。来年度は対面、ウェビナー、あるいはハイブリッドなど開催方法も併せて検討する。

● アーカイブ・ツーリズムの企画と実施の検討

本年度はアーカイブ機関の現場などへの見学を予定していたが、コロナ禍のため、実現できなかった。

2. 映像の文化的、芸術的、歴史的及び教育的価値に対する社会的認識ならびに関心の向上促進

● **基金設置を含めたファンドレイジングの方法の調査と検討**

本年度はファンドレイジングに関する調査や検討を行うことができなかった。

3. 映像アーカイブ機関ならびに隣接機関との連携、協力

● **映画の復元と保存に関するワークショップ 2021(仮称)への協力**

本年度は限定開催のため、「映画の復元と保存に関するワークショップ」への協力は行わなかった。また、「映像アーカイブ機関ならびに隣接機関との連携、協力」については、コロナ禍により、積極的な展開は行えなかった。来年度は積極的な展開を図りたい。

4. 2021 年度定時総会の開催

本年度は、コロナ禍の影響で、オンラインによる総会開催(2021年6月27日)としたが、総会では、オンライン開催に関する定款変更、ならびに理事及び監事の選任、前年度の貸借対照表、損益計算書及び監査報告書の承認を得た。